

豊富な地下水をくみ取ることができるわけです。私は施策も同様に思っております。政策に中小企業の成長力を高めることを目標にするのであれば、それに向かって挑もうとする中小企業向けの支援策、つまり呼び水となるものが欠かせないのです。少しの差し水はいずれ大量の水になって地域が潤うこととなります。金額は小さくても大きい効果が得られる施策が必要と思います。

産業参事には質問を準備しておりましたが、答弁していただけて非常に残念であります。

以上で質問を終わります。

○平 進介議長 ここで暫時休憩いたします。再開は3時25分といたします。

午後 3時02分 休憩

午後 3時25分 再開

○平 進介議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

梅津善之議員の質問

○平 進介議長 次に、順位15番、議席番号12番、梅津善之議員。

○12番 梅津善之議員 3月定例会一般質問最後の15番目です。当局の皆様におかれては、大変お疲れのところ、最後までよろしくお願ひしたいと思います。

本日、3月8日は国連の定める国際女性デーであります。様々な方が女性軽視の発言からいろいろ話題になっておりますが、我が国日本として、もちろん地方議会も含めて女性の活躍を

後押ししたいという思いはあると思いますが、なかなか現実として難しかったりするのが浮き彫りになってるような状態であるかなと思いますし、私は小さい頃から田舎だからというか、昔のうちだったんでしょうね。ご飯食べるころも小さい頃は、おじいさんが食べるころと全然違うところに座って食べてたなんていうことを思い出したりして、今は全くそんなことはないんですけども、時代の流れとともにいろんな人がいろんな意見を言える議会であったり、そんな国になればなと思って質問したいと思います。

通告に従って質問させていただきます。

今後の財政運営はということで、最初、質問させていただきます。

第五次総合計画並びに公共施設等整備計画の下、新市庁舎、給食共同調理場、公立置賜長井病院と長井市民文化会館等が建設され、今年度中に完成、着工の予定になっております。これからの維持管理費、これは議会にも新市庁舎など提案されている部分ありますけども、財政課長から、これからの維持管理、もちろん公立置賜長井病院は置賜広域病院企業団の会計になっておりますので、分かる範囲で結構でございますので、財政課長からご答弁いただきたいと思ひます。

○平 進介議長 鈴木嗣郎財政課長。

○鈴木嗣郎財政課長 お答えいたします。新しい市役所の庁舎、給食共同調理場、公立置賜長井病院、長井市民文化会館の維持管理費についてのお尋ねでございます。

令和3年度の一般会計予算に計上しております維持管理費を申し上げます。まず、新市庁舎の維持管理費は予算書の44ページの説明欄006庁舎等管理経費に8,194万6,000円を計上してございます。給食共同調理場は169ページの説明欄008給食共同調理場維持管理・運営等事業がございまして、この中でPFI維持管理委託料

3,545万9,000円を計上してございます。長井市民文化会館につきましては、162ページの説明欄 002市民文化会館施設管理事業で、市民文化会館の指定管理料5,986万円を計上してございますが、このうちの維持管理費につきましては2,200万円ほどと見込んでございます。

なお、公立置賜長井病院につきましては、梅津議員のおっしゃるように、事業主体が長井市ではなく、置賜広域病院企業団ということに加えて、現在、整備の途上であり、完成後の維持管理費については分からない状況となっております。

○平 進介議長 12番、梅津善之議員。

○12番 梅津善之議員 予算書に書かれてるということでございますので、次の現市庁舎と現教育庁舎と現学校給食共同調理場の今後の利活用の方針、さらに水道事業所なんていうのは、ちょっと通告で抜けておりましたので、もし分かれば、これは市長のほうにお答えいただきたいと思っております。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。現市庁舎、64年目ということですね、あとは現教育庁舎、旧税務署から払下げをいただいた部分ですね。あと学校給食共同調理場と、また水道事業所のこれからの利用の考え方と、あるいはこの後どうするかということの考え方だと思いますけれども、行政目的を終了します、さきに申し上げた3施設につきましては、いろいろな案などはございますけれども、今のところ何も決定しておりません。

また、水道事業所、管理センターにつきましては、管理機能として必要な部分もございまして、あそこは例えば保健センターもそうなんですけれども、職員は全て1か所に集まりますけれども、必要なときに職員が出向いて利用するというのが水道事業所、水道管理センター、また、保健センターになるかと思っております。

現在の学校給食共同調理場について、まずお話ししますと、大変老朽化が著しいと。昭和42年の建物で、55年目ということでございますので、解体するしかないと考えております。その方向で何か手当できる財源がないか検討してまいりたいと考えております。

現市庁舎、現教育庁舎につきましては、再利用は可能と考えられますが、今後の財政運営を考えますと、再利用の際、市の財政負担が生じないよう、慎重に検討していく必要があると思っております。現市庁舎は事務所として使う場合はこのままでも使える場合があるわけですが、それ以外の目的ですと建築確認を再度取らなきゃいけないということで、それなりの費用が生ずると。また、現教育庁舎でございますけれども、こちらにつきましては、文教のエリアの中にございまして、また、現在、一般財団法人文教の杜ながいの事務所が手狭というか、ない状況でございます。また、文教の杜に保管している様々な古文書やら、あるいは頂いている、芸術作品等々について、保管するところがやっぱり手狭でございますので、そういったところで使えないかということで考えておりますが、これが具体的にはまだ決定しておりませんので、こちらについて一般財団法人文教の杜ながいとも協議しながら、また、庁舎全体でどうするか検討してまいりたいと考えているところでございます。

○平 進介議長 12番、梅津善之議員。

○12番 梅津善之議員 その利活用も含めて様々な検討していただきたいと思っておりますけれども、動かすにはお金もかかることですし、当然、壊すのもお金のかかることでございますので、慎重に検討していただいて、財源等を見て適切に判断していただきたいと思います。もちろん文教の杜なんかを含めていろんな提案があるかと思っておりますので、ぜひ市民に寄り添って、利活用も含めた検討を早急にしてほしい

ものだなと思って質問をさせていただきました。

3番目の質問です。これは財政課長にですけれども、昨年6月に長井市の中期財政見通しということで、財政課長のほうから頂きました。非常に建設事業を順調にこなしてきて、財源的にはなかなか大変になってる状況をお示しいただいたと、私はこの表を見て思います。財源の確保対策をしないでいくと財源不足になるという表示に私は受け取っていますけれども、今までの事業とこれから長井市が抱えていく財政を5年先を見越して表示していただいたもので、計画的な事業の執行やら事務事業の見直し等、様々な課題を抱えながら進んでいかなければいけないものと私は判断しますし、木曜日の勝見英一朗議員の質問にも、当時のように大変になるんじゃないかと、市民の声がそう発せられているのも私もお聞きします。ただ、いろんな財源を確保して、長井市が市民に寄り添った事業をできるような状況をつくっていかねばならない、財政運営をしていかねばならないと私は思っておりますので、その辺の観点から、財政課長のお考えをお聞きしたいと思います。

○平 進介議長 鈴木嗣郎財政課長。

○鈴木嗣郎財政課長 お答えいたします。昨年の6月に中期見通しのほう、お示しいたしておりますので、私から回答を申し上げるとすると、中期見通しの中でどのような対応をしていくと考えているかということにはほかならないのではないかと思います。

中期見通しによりますと、歳入歳出それぞれ両面で財源対策を行って、その前段でお示している収支の差、乖離を埋めていくと。あわせて将来上昇していく実質公債費比率、そちらを何とか抑えていきたいというような見通しをお示ししております。

歳入の面では基金を活用すること、それから、第2期総合戦略で各種政策を推進すると、そういった中で少し税収の落ち込みをカバーするな

どというようなことも効果としては考えている。大きいのは、特にふるさと納税事業の活用というものが、昨年の6月時点ではそれほど大きな効果が見込めるかどうか、少し心配だったわけですが、年末の状況を見ますと、それなりの収入としてある程度見込める兆しはあるのかなというような思いも、この6月にお示ししたところではそれほど入っていないわけですが、今年の6月にお示しするところではもう少し見込めるようなものになるのかなと考えてございます。

歳出面におきましては、梅津議員からもお話がありましたように、計画的な事業執行、それから、効率的、効果的事业展開、事務事業の見直し、経常経費の削減、市民との共同、民間他行政機関との連携などによって、経費の節減効果を出したいというような見通しで、それぞれ見込まれる収支差をゼロにしていきたいというような見込みを示しているところであります。

あわせて、減債基金の積立てや繰上償還などをして、実質公債費比率が18%を超えないように考えていきたいと思っております。

中期見通しを踏まえまして、引き続き情報の収集に努め、今、制度がないというような先入観にとらわれることなく、あらゆる財源を探して対策を講じてまいりたいと、このように考えております。

○平 進介議長 12番、梅津善之議員。

○12番 梅津善之議員 でき得る財源の具体策や各課から上がってくる様々な要望に応えられるような財政運営をしていただきたいと思いますものだなと願うばかりですが、いかんせん、現状を鑑みると、将来的になかなか大変だろうなんていう思いをしてるところでございます。

市長の施政方針でも人口減少対策であるとか、先ほど来から企業への誘致なり、地元企業への支援とか、様々な対策を講じてはしていますが、私が初当選した10年前から見れば間違いなく人

口が減ってきている現実を目の当たりにすると、国や県の事業を長井市がつくっていくぐらいの気持ちで取り組んでいかないと、やっぱり大変だろうななんていう思いがします。

市長には現状を踏まえた中で、市民に喜んで活用していただける中心市街地の活性化であったり、長井市に住みたいなと思えるようなまちづくりをぜひ目指してほしいと思いますし、その辺も含めた市長の見解をお伺いしたいと思います。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。梅津議員からありましたように、勝見英一朗議員の代表質問の中でも詳しくお答えしておりますが、梅津議員もおっしゃったように、多分、財政は果たして本当にもつのかなということでの不安というのは、市民の皆さん、感じておられると思います。

平成の30年間の中で、保健センターがたしか平成4年で、あとは平成9年に西置賜行政組合、これは長井市だけじゃなくて、1市3町で建設したわけでございますけども、それ以外に大きい事業はほとんどなかったと思います。それが、平成22、23年頃から小学校あるいはスポーツ施設等々、大規模改修とか耐震化、あるいは長寿命化を図ったり、長井小学校については規模が大きいのでなかなか補助対象にならずに、体育館は何とかできましたけども、管理棟なども大変厳しい判断をしたわけでございます。今、私ども何とか先送りしないでやろうと頑張ってるわけですけども、これを先送りされたら私たちの子供や孫はもうたまったもんじゃないと思いますね。今、我々、先送りされてきたわけですよ。市庁舎については、これは私は先送りされてきたとは思ってないです。市庁舎なんていうのは本当に全部自前で建てなきゃいけないわけですから、それこそ市庁舎を建てるなんていうのは合併とか、そんなことがない限りすべきじ

ゃないだろうと。しかし、六十数年たってるわけですから、これ、現在使ってる市庁舎としては市町村では山形県で一番古いと思いますね。でも、それを何であんなもん建てたんだという人ももちろんいるんでしょうけども、本当に今のままでいいんですかと。じゃあ、20年後、造れますかと。造れないと思いますよ。しかも耐震度の強化しなきゃいけないわけですよ。I s値0.6しかないんですよ。国では0.9必要だと言ってるわけですね。いわゆる防災の拠点になると。ですから、これを一旦、議会にお認めいただいて、I s値が0.3ぐらいしかなかったのを0.6まで、7,000万円ぐらいで補強したわけですね。じゃあ、これを0.9までまた高めればいいかと思ったときに、ハザードマップが変わって、2メートルから2メートル50センチ浸水する区域に再投資していいんですかと。

したがって、これだけ自然災害が頻発する中で、このままで、しかも7か所に分かれて市民にご不便をおかけするなんてできないでしょう。また、本当のこれからのデジタル化にこの市庁舎で対応できるんですかと。

あと公立置賜長井病院についてはご存じだと思うんですが、I s値0.2しかないんですよ。よくぞもったなと思うぐらい。しかも昭和46年ですから、間もなくもう50年ですよ。それもやっぱり早急にやんなきゃいけない。市役所については熊本の地震をきっかけに、国のほうから22.5%の補助をしてもらえる、このチャンスしかないだろうとやってきたわけですね。

したがって、詳しいことは繰り返しになりますので申し上げますが、今、本当に昔と違って頑張れば国はちゃんと支援してくれるんですね。例えば私が市議会議員をさせてもらってる時、また、市長になってからも一番公債費が高かった年が27億円だったと思いますね。それは、今と違って100%国で保障する臨時財政対策債とか、あるいは公共事業をやって起債した

ときの交付税措置があるやつとか、そういうものをほとんど含んでないです。今、例えば8億円、9億円あるいは十何億円あったとしても、半分ぐらいは交付税措置あるんですよ。そういうものをずっと選んで、財源を確保しないとやっぱりこんな計画は立てられないということでやってきたと。

あとは平成の初めぐらいは非常に金利が高くて、5%、6%ですよ。今は私どもが借りの場合の基準金利なんていうのは、もう0.2%以下ですから、そこから見たらもう雲泥の差ですよ。したがって、もう今しかないという思いでやってるわけですね。

そうすると、どうしても一般財源がありませんので、少し制限が加わってしまうのは、これはもう致し方ないんですけども、ここは歯を食いしばってもう我慢するしかない。ただし、財政課長も申しあげましたけども、ふるさと納税という大変ありがたい制度もできました。ですから、ここで地元の産業振興にもつながりますし、そして、過度な、かつての関西のほうの自治体みたいに、あんなせつかくのふるさと納税を否定するような身勝手なやり方はしない。あくまでも純粹に、そのためにはやっぱりふるさと長井会とか長井の応援団の人たちに声をかけていただいて、いいものを、地元のものをふるさと納税してもらって返礼品返すことによって財源もできて、なおかつ地元の産業振興につながると、そういったものなどを頑張りたいということできております。

ちょっと長々と恐縮でございましたけれども、私どもは中心市街地の活性化を行うことによって、都市の魅力を高めて、特に子育て世代に見放されないように、都市機能とか子育てと教育に力を入れて、やっぱり子育てするなら長井市に住むと選んでもらえるようなまちをつくらうということで、今、議会の皆様からのご協力、ご理解いただいて、頑張っているところでござ

います。

やっぱり地域経済の底上げは非常に重要なんですが、もう今、経済構造も本当変わってますんで、ですから、非常に経済も我々行政でできることなんて限られてるんでしょうけども、でも、国もコロナ禍が明けたポストコロナのときは、必ず大型の経済政策やってきますので、それらを我々頑張っとうまく活用していくと思っております。

過日、施政方針、非常に長くて分かりにくいってありましたけど、あえて長くしたんですね。読まない人は読まないと思います。それはそれでいいと思いますが、本当に关心ある人に読んでいただければそれでいいと。ですから、ちょっと長過ぎたなという感はありますけども、やっぱりそれだけの意気込みでありますし、市民の皆様にご理解いただけるだけいろんなことをご理解いただきたい。市民は、議員の皆さんが持っているような情報の何十分の1しか持ってないわけですから。ぜひ梅津議員からも、市民からそう聞かれた場合、議員思っただけのことでももちろん結構でございますんで、いろんな情報を教えていただければと思っております。

最後に、今後の財政運営について、改めて簡単に申し上げたいと思いますが、抽象的な物言いになってしまいますが、限られた財源であります。さらに財源を探し出す努力、これが本当に自画自賛じゃないんですけど、さっきも言いましたけど、SDGsを何でしなかったって、あまりお金引っ張れないんですよ。こういう言い方は失礼ですけど。お金引っ張って、いろんな市民の要望あるいは議員の提言に応えようということで、とにかく情報が一番なんですね。いつまでも国や県のほうに職員を多数送ることはできないかもしれませんけれども、今の段階でできるだけ情報収集に努めていきたいと思っております。

財源を最大限かつ有効に活用するとして必要

とされる行政サービスを提供し続けることができるようにする、このことが肝要だと考えております。いわゆる所与の財源のみならず、財源確保のため、国の補助事業や交付税措置、その他団体の制度など単独事業として取り組むのではなく、引き続き財源つきの事業に取り組むことを基本に考えてまいります。

なお、浅野敏明議員の代表質問でもお答えいたしましたけれども、県にはいろいろな形でお世話になってます。ただ、同じ地方自治体ですから、国の補助金のトンネルっていうのは結構あるんです。あとは、例えば国に最終的に、財源としてお金を借りる場合、県が窓口になって、そして、客観的に見て、いろいろな助言をしてくれるということでございまして、県に望むのはやっぱり県道とか、あるいは県管轄の幹線、河川こういったところをぜひ、これは客観的に見て必要なところはきちんとやってほしいというふうに思っておりますし、あと県はやっぱり我々長井市のエリアだけじゃなくて、県全体を見通してやっていますんで、いろいろご助言はいただいとると思いますし、長井市民も山形県民ですから、差別なんていうのは一切ないと思っております。

特に地方創生交付金事業やふるさと納税は私どものような税財源の乏しい地方の小都市にとりまして非常に有効な制度でございまして、引き続き積極的に進めてまいります。

地方創生交付金事業では、長井市ならではの先駆性、あと長井市の資源、ここにある我々の宝ですね、そういったものをしっかりと生かして、さらに独自性と磨きをかけて、ふるさと納税では返礼品競争に巻き込まれることなく、関係人口、交流人口創出という視点で着実に充実させてまいりたいと思います。

また、その他の事業を進めるに当たっても、前例踏襲の予算償還型というのは、これ、厳に慎まなきゃいけませんし、今はウィズコロナで

終わったらアフターコロナなどについても配慮しながら、最少の経費で最大の効果が得られるように、知恵と工夫によって常に効率的、効果的に事業を進めてまいります。

さらには、デジタルトランスフォーメーションや5G、第5世代移動通信システムなど、新たな技術を活用した行政サービスの効率化にも力を入れてまいりたいと考えております。

ぜひ、これからも梅津議員からご理解、ご協力、そして、ご助言等賜りますようお願いいたします。

○平 進介議長 12番、梅津善之議員。

○12番 梅津善之議員 もちろん、人口減少や地方自治体の財源が厳しくて、様々なことができなくなるような時代がすぐそこに来ているというときに、新型コロナウイルスとか災害とか、様々なことが起こって、本当に大変な状態であると私も思っています。あまりお酒はたしなみませんが、商店街や夜の街を挨拶がてら回ってみると、本当に大変だという話をされることをしみじみと身にしみております。

全く関係ない話をさせていただきますが、島根県知事が聖火リレーを何だかという話をマスコミ等でお聞きしました。地域がこれぐらい疲弊してるのに、国は何もしてくれないと、聖火リレーなんかどうだと、もちろんそれは政治的な背景が多々あるかと私も思いますけども、私たち議員もいろいろな発言をして、もちろんそれは批判されることや、考え方が違うこと、住民とずれてることなんか往々にしてあると思えますし、その発言にはやっぱり最後まで責任を持ってやるべきだなと私自身も思っております。

ぜひ市長には、今後とも、国や県への働きかけであったり、地方自治体が頑張っただけで元気になれるような施策、さらにはその様々な補助事業も含めて、取り組んでいていただけるようお願いして、この質問を終わりたいと思います。

次に、2番目の地元高等学校を今後にかす

にはということで、教育長にお尋ねします。

今年度の公立高等学校の平均志願倍率が0.84倍となっております。さらに、東置賜地区は、令和8年度には、現在の7校の28学級から米沢工業高校と米沢商業高校が合併して、6校の25学級に再編整備されることがもう既に決まっております。以前に鈴木一則議員からもお尋ねあったかと思いますが、現況のこの倍率0.84、さらにはその定員の半分を2年間下回った場合は、その学科を閉鎖するなんていう話もお聞きます。西置賜地区での再編なんかはあるのか、これは県で考えることかもしれませんが、教育長が知ってる範囲でお答えいただけますか。

○平 進介議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 お答えいたします。

まず初めに、置賜という、いわゆる高校でいう南ブロックと捉えておりますけれども、その再編計画についてお話ししながら、今のご質問にも触れたいと思います。

山形県の教育委員会では、平成26年11月に、平成27年から令和6年までの10年間のスパンで、県立高校再編整備基本計画を策定しました。これに従って各地区の再編整備を進めているところでございます。置賜管内の計画では、令和4年度に米沢商業高校が1学級減、それから令和5年度に高畠高校が1学級減、それから米沢工業高校の学科の再編、さらに、令和6年度に置賜農業高校が1学級減となる予定で進んでいるところです。

平成29年の東南置賜地区検討委員会をここで設置しまして、さらに、米沢工業高校と米沢商業高校の統合について検討しているところです。令和7年度には、この両校を統合して、仮称、米沢産業高校、この間、新聞に載っておりましたが、これを開設するために、来年度、開校準備委員会を組織して、具体的な開校準備を進めるということで進んでおります。

西置賜の場合は、ここの再編計画には該当し

ておりません。先ほどのご質問ですが、県立高校の再編整備に関する基本方針というのが令和2年2月に示されました。ここでは、1学年当たり1学級の学校については、学校が所在する市町の意向を踏まえ、学校関係者及び当該市町で構成する学校魅力化に係る地域連携協議会等において、学校の魅力化、活性化を検討し、3年間をめどに対策を講ずると。それでも増加傾向が見られない場合には、設置主体を含めた学校の在り方について、地元市町と改めて協議する、少し協議の時間を県のほうで置いたということが実態であります。

なお、西置賜の中で、1学年1学級の学校は、小国高校、それから荒砥高校になっております。今のところ、私が持ち得た情報はこれだけあります。

○平 進介議長 12番、梅津善之議員。

○12番 梅津善之議員 本当に極端な人口減少というか、子供の数が減ってるところを目の当たりにしたところです。

15歳の少女が将来を展望するに、人生を決めるのに何か目標を持って、図らずもこうなりたいと思って、やれるぐらいの子供はやっぱりすごいなと私は思います。にもかかわらず、やっぱり普通高校なり、新聞記事によれば、探求科思考だなんていうことが書かれておりました。

県内の高等学校を見ますと、特出してるのが、山形中央高校の体育科と山辺高校の看護科、今年は看護科はさほど倍率は高くないんですけども、推薦倍率で3倍を超えていた現状にあります。子供たちが今、何をしたいかということも含めて、高等学校の中身もやっぱり変わっていかねばいけないんじゃないかなと私は思っております。こんなコロナ禍の時代に、看護のことを目指してやりたい、なりたいと思っている子供たちが、置賜地区にも、西置賜地区にも長井市にもいるということにびっくりしました。

お母さんが看護師であったり、家庭環境であったり、いろんな思いを持ってそこに臨む子がいるんだななんていうことに気づいたわけですが、長井高校は普通高校として、探求科も含めて進学校としてばんばんやっていただきたいと思いますし、長井工業高校も含めて、いろんな検討がなされることだと思いますけども、時代に合った科の編成であったり、子供たちが求めている学科を新設していくことも大切ではなからうかと思えます。

以前、長井工業高校の校長先生に長井工業高校に看護科なんて無理ですかねなんていう話を雑談を交えてさせていただきました。かなり難しいです、梅津さんと言われたことを今も思い出しますが、子供たちが学びたいことを地域で支えていく、もちろん機械システムや生産システム、建設現場などでいろんなことを学ぶことも十分大切ですが、子供たちのニーズに応じていけるような学科の編成も必要ではなからうかと思えます。夢のある科であったり、今時代が求めているようなことを学べる科があれば、子供たちもどきどきして、入りたいなと思うことがあるのではなからうかと思えます。

もっと付け加えさせていただければ、公立高校でなくて、私立の学校に進む子供たちが今たくさんいます。びっくりするのは、その時点で既にもうやりたいことがあって、その高校では一生懸命やってる姿が見えるということで、私もやりたい、学びたいという思いを持ってそこに行くんだななんていうことを感じました。もちろん県内の私立高校も含めてですけども、もう既に中学校を出て、県外の高校に行ってる子もいますし、現在、もう私立高校で内定をもらってる子もたくさんいます。県内、県外という分け隔てはないんですが、ぜひ地元でやりたいことができる、もちろん公立高校があれば、地元定着であったり、地域の活性化につながりますのではないかなと思います。

山辺高校なんか、全て全寮制で、5年間で看護師、准看護師でしたかの資格が取れて、もちろんそれはきちとした資格を取るにはもう1年学ばなければならないという状況にありますけれども、そういった状況も踏まえて、いろんな提案をしていくべきではないかと思えますけれども、この辺について教育長はいかがでしょう。

○平 進介議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 今、ご紹介いただいた山辺高校には長井市からも毎年、何名かずつやはり行っております。実業高校については学区というのがありません。例えば特徴的なところで、加茂水産高校、そこにも行くことができますし、実際に行った子もおります。

大事にしたいなと思うのは、先ほどの私立高校のことで、梅津議員からもご紹介ありましたが、やっぱりその学校がずっとこだわってきた特徴ってあるんですね。それをぶれなく、学校づくりにずっと何年も何年も長いこと励みながら、伝統をつくってきた学校が非常に強いと私は思ってます、そこに魅力を感じる。高校はもちろん山形県の教育委員会の管轄ですけども、2つ方向性があるって、今、子供が何を求めるからということで考える部分と、例えば長井工業も、長井高校もそれぞれの校是があって、その校是に従ってきちとした立ち位置を持ってつくっていく。その2つをどう両立させていくかということも大事ななだと思います。

当然、今の少子高齢化の到来があって、生徒数がこれだけ減ってますと、社会自体、大きな転換期を迎えますので、これらについて、高校だけでなく、小中学校ともこれからの在り方というのを考えていく必要があるかなと思います。

いずれにせよ、高校が自立した人間として社会に送り出す大事な役割を担っているわけですので、これからのことを考えたときに、その時

代のニーズに応じた学校の在り方、魅力的な教育活動、それから、もう一つは、地域に根差した新しい社会の担い手となる人材育成、長井市でも人材育成連絡協議会等をつくっておりますが、そのようなところを踏まえながら、今後、考えていく必要あるかなというふうに思います。

なお、来年度から、こちらのほうで考えてることも未来創造室、ここでは、高校も一緒になって考えるテーブルをぜひつくりたいと思っておりますので、そのテーブルの中でこんな話もできればいいなと私のほうでは考えているところです。

○平 進介議長 12番、梅津善之議員。

○12番 梅津善之議員 ぜひ検討していただいて、職業高校は県内どこからでも来ていいということですから、学ぶには長井工業に行きたいなと思えるような学校になっていただければ、ありがたいと思います。今、子供たちの考え方が全く変わっていて、すごく気づくのは、やっぱりなりたいことで、サッカー選手とか、野球選手とかってというのは当然ランクインしてくるんですけども、ユーチューバーとか、もう私たちの時代の職業と全く違うものにつきたいと思ってるということなんです。それが学べるかどうかは別にしても、そんな魅力がある学校だと定員割れなんかすることはないだろうななんていうことを思ったりする場合があります。地域を学んだり、地元を学んだりしながら、いろんなことを発信していくような、創造できるような新しい科があっても、全然それはおかしくない、時代に合ってるんだらうななんて思う場合があります。ぜひ検討いただいて、学ぶには長井市に行きたいなと言えるような学校になればと思っております。

3番目の質問です。市内高等学校に地域と連帯した地域食堂をとということを書かせていただきました。

私たちが学んでいた頃は、もちろん弁当持っ

て学校に行くわけですね。私はたまたま汽車通で米沢市まで行かなきゃいけなかったもので、朝、ご飯を食べていくんですけども、おなかすいて、2校時とか3校時に早弁して、お昼には学校の売店でパンを食べて、それから部活動に行くんですよ。最終列車、7時半頃の電車で帰ってくると、もう本当におなかすいてぺこぺこだったと思います。

そんな大がかりなものでもなくてもいいので、地域の方々、もちろん長井工業高校、長井高校の学内にあれば最高ですけども、地域の空き家とかとも連帯をしながら、おにぎりでもスープでも何でもいいんです。そんな地域が暖かい、高校を支えているような学校と地域の連動した地域食堂をなんていうことを思い描いたところでございます。

何ととっても、毎日の食生活で食べることが人間の生きることの根源であると思っております、ここでお世話になったから、長井市に戻って、もっと地域のために頑張ろうななんていう子供が出てくれば、よりありがたいなと思えますし、そんな地域であってほしい。全くこれは、誰かがするとかっていう当てがあって言ってるわけではなく、もちろんNPOであったり、先ほどから出てる公民館の事業であればいいけど、公民館はちょっとやることがあり過ぎて大変だなと思って聞いておりましたけれども、地域の方々ができる地元高校を支えるような体制ができればと思います。この辺のことについて、教育長はいかがでしょう。

○平 進介議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 今のご提案は、地域食堂というより、コミュニティーの場をどうやってつくっていくかということで私は理解したところで、そういう意味では非常に興味深い提案だなとも思います。長井市内の高校で学ぶ生徒を、長井市出身とか、そういうことでなくて、地域で応援しようという機運が高まることで、地元

高校の活性化という点からは非常に大きな力になるかなと思ったところです。

ちょっと離れるかもしれませんが、今、子育てとそれから図書館の複合施設、それを計画しているわけですが、この中で、カフェのようなものがあるわけです。恐らくあそこは高校生も行くところになるかなと。そういうところをいろんな意味で活用できないかなとも思うのでした。

今、例えば長井工業高校でおもちゃの病院なんかやっていますけども、ああいうエリアの中でそういうのをやってみるとか、それから、図書館ができますから、非常に高校生のボランティア盛んですので、読み聞かせで行ってみるとか、地域の中に役立つ場というのをそれぞれの力をもってすると、そして、そういうところを共有できる場が、もしかしたらああいう公共複合施設が新しい可能性を引き出すのではないかなと、私個人はそう思っています。あらゆる場で、子供たちが地域と交流しながら、自分たちが役立っているんだと、もっと力になろうかなというところをつくっていければいいなと、私見であります。そう思っているところです。

○平 進介議長 12番、梅津善之議員。

○12番 梅津善之議員 そうですね、その地域との関わりとかっていうことを私は大事にしたいなと思って、提案として考えていただければいいと思いますし、食事というか、おにぎりとか、簡単なもので私はいいと思うんですよ、自分の地域にあるようなもので本当にいいと思います。部活動する前とか、本当におなかすいて、大変だったなという思いもありますし、汽車通だったんで、いつも回っていくちょっとしたお菓子屋さんみたいなところで、今も思い出しますけども、小遣いもろくにないもんで、パンなんかをもらって食べた、ごちそうになったことを今思ったところです。ぜひそんな地域とのつながりを持ったところがあればいいと思います

し、長井小学校の第一校舎も、夕方になると、うちで勉強するよりいいからって、長井高校の生徒が学んでいる姿を何度か拝見したこともありますし、非常に役に立ってるんだなと思っております。地域との連帯の中でそんなことができればと思っておりますので、ぜひ検討いただきたいなと思います。

あと最後の質問です。今までも多くの方がお聞きしておりますけども、時間もありませんので、商工観光課長に1番と2番、まとめてお聞きしたいと思います。ティーエヌアイ工場株式会社の工場閉鎖であったり、グンゼ株式会社さん、そして、内容議員からは株式会社やまざんさんのことありましたし、先ほど鈴木裕議員からはJ A山形おきたまのグリーンセンター倉庫、愛菜館、カントリーまで多分引き上げるような計画も示されてるやにお伺いしています。

長井市からいろんなことがなくなるということが私にとっては寂しい限りで、いろいろな弊害が出てくると思って心配しています。現状をどう把握してらっしゃるか、そして、今までも様々な施策を考えてきて、実行していらっしゃると思っておりますけども、その辺について商工観光課長にお伺いします。

○平 進介議長 赤間茂樹商工観光課長。

○赤間茂樹商工観光課長 長井管内につきましては、これまでも別の答弁で申し上げるところではございますけども、まず、ハローワーク長井管内におきましては、全体の状況を新型コロナウイルス感染症が雇用に与える影響に注意を要する状態にあるという見解を出しております。6月以降、現在の調整、分析をハローワーク長井のほうでもしているということでございます。

間もなく1月の有効求人倍率出るんですけども、まだ届いておりませんので、12月の場合を改めてお伝えいたしますが、1.21倍という状況でございます。そのうち正社員に係る有効求人

倍率を見ましても、1.35倍ということで、必ずしも仕事がない地域ではないということですが、梅津議員も以前からおっしゃってらっしゃるように、そこにミスマッチと申しますか、仕事をしたい側と求人を出してる側との仕事のマッチングがうまく合っていないという状況が見てとれると思っております。

新型コロナウイルスの影響によりまして、全国的に雇い止めという報道もなされておりますけれども、現状では、その地域ごとにどれくらいあるかという情報については公開してないというようなこともあって、つかめてない状況にあるところです。ただ長井管内では、ハローワーク長井を中心に、市も長井商工会議所もとにかく雇用調整助成金などの制度を使って、雇用の維持に努めてもらえるよう働きかけを今、しているという状況でございます。

今後の話になりますけれども、今までどのような対策を行ってきたかといいますと、ハローワーク長井、長井商工会議所と長井市で雇用対策協議会というふうな組織をつくっております。こちらでは、定期的に集団就職面談会を開催したり、あるいは高校に赴きまして、企業説明会の実施もさせていただいております。そのほかに企業ガイドブックというものを発行いたしまして、これは、この長井管内でも使っておりますが、東京事務所のほうにも1部お送りさせていただいて、広く周知をしているところでございます。

今後、市内の各企業も閉鎖ということもありまして、仕事を求める方が急に増えてくるという状況も考えられますので、その場合、市内ほかの企業の方とも調整をしながら、集団面接会を開催するなど、なるべく長井管内で成立するようなマッチングを行っていきたいと考えておりまして、長井商工会議所ともその点に関しては相談を行っているような状況でございます。

かつてなんですけど、この地域の有効求人倍率

が1以下だったときがありました。そのときは、長井市でも雇用創造事業という国の制度を使った事業をさせていただきました。その事業の中では、やはり長井市が主導で就業のマッチングをしたり、面談会を行ったりということも開催させていただきましたし、新規に雇用していただいた企業の皆様には助成金なども出させていただいたという事業でございました。

現在は、有効求人倍率が1以上なものですから、そのようなことはできませんが、今、国のほうで制度変わりをしまして、地域雇用活性化推進事業という新たな事業も出てきましたので、そのようなことも見ながら、魅力ある雇用の創造をしていきたいと思っております。

○平 進介議長 12番、梅津善之議員。

○梅津善之議員 時間もないので、最後に藁谷尊産業参事に、2年間、長井市に来ていただいて大変お世話になりました。いろんな面で気づくところがあったと思います。ここは最後だと思いますので、思いの丈をぜひ話していただいて、長井市が役立つようにぜひお願いしたいと思います。

○平 進介議長 藁谷 尊産業参事。

○藁谷 尊産業参事 本来ならば、新たな雇用の創出が必要ではないかというご質問でございます。

まだ正式に内示は出てませんので、お別れかどうかというのはちょっと分かりませんが、取りあえず2年ということで長井市のほうに着任させていただいて、大変皆様方にはお世話になりました。

就任当時からもちょっとお話はさせていただいたんですけども、長井市とは本当に私、こちらに赴任する前からいろいろな面でつながりがあったということで、本当に長井市に赴任させていただいて大変光栄だったと思っております。例えば仕事の面であれば、中小企業の関係で例えばサンリット化成株式会社さんとか、あとは

株式会社長井製作所さんなんかにも企業訪問という形でお邪魔させていただいていますし、あとは個人的に、私、多賀城市ということで、多賀城市は長井市とアヤマの関係で強いつながりがあるというところもあって、そういう意味で、私自身、非常に長井市のことを知ってるかなと思ってたんですけども、やはり来てみると、本当にすてきなまちでした。水という部分については非常に知ってましたけれども、黒べこまつりとか黒獅子祭りとかですね、非常にそういうものについて、すみません、申し訳ないです。

- 平 進介議長 藁谷産業参事に申し上げます。
質問時間の60分が経過しましたので、直ちに答弁を終了して、自席に戻ってください。
- 平 進介議長 12番、梅津善之議員の質問は以上で終了いたします。
梅津議員は自席にお戻りください。
以上で一般質問は全部終了いたしました。

散 会

- 平 進介議長 本日はこれをもって散会いたします。
ご協力ありがとうございました。

午後 4時26分 散会